

多様化するファッションに対応したプリント

—50年の経験と技術を活かして—

ことぶき繊維加工株式会社

東京都八王子市元本郷町2-1-16

TEL : 042-622-2432

URL : <http://www.kotobuki-seni.co.jp/>

近年、ファッションの多様化が進み様々な繊維製品が出回っています。それに伴い染色加工法も多様化しています。多様化する染色加工法に対応するため技術向上に努めているスクリーンプリント（な染）工場、ことぶき繊維加工(株)をご紹介します。

スクリーンプリントとは型を用いて生地には模様を表す染色方法であり、手法として人間の手により加工するハンドプリントと機械により加工するオートプリントに区別されます。同社では多様なプリントに対応するため、ほとんどのものをハンドプリントで行っております。アパレルメーカーの婦人・紳士ニット製品を主に扱っており、加工対象とする素材は天然繊維から化学繊維と幅広く対応しています。

長年の経験と技術に基づいた生産体制

プリントはな染のり⁽¹⁾の配合から始まり、生地への印なつ⁽²⁾、蒸熱⁽³⁾、洗浄と作業工程があり、全ての工程が関わりあって製品の出来が決まります。製品を良質に染めあげるには各工程において、他工程への影響を考慮する必要があります。一例をあげると、配合したな染のりの粘度により生地への適切な印なつ量を検討していく作業が挙げられます。同社では時間がかかる



図1 工場の作業風景

あらかじめ黒く染められた生地を台に貼り、白抜き模様を表すためのな染のりを印なつしている

調整作業を、長年にわたり蓄積されたデータ、職人さんの熟練した技術により素早く判断できるため、短納期で良質な製品の加工を実現しています。

- (1)染料、顔料その他必要な薬剤が配合されているのり
- (2)生地へ部分的にな染のりを置き、模様を表現していく作業
- (3)な染のり中の色材を繊維に固着、あるいは薬剤を反応させるため水蒸気を用いて加熱する工程

新技術への対応を目指して

「昔は流行物を大量に染めていたが、今は様々な商品を小ロットで染めることが大半。プリントであれば素材や加工法を選ばずになんでもできる技術があります。様々な繊維素材に対応するための色材や、特殊なプリントも可能な薬品をそろえています。」と長濱社長は語られ、常に新しい技術にチャレンジしながら多様化するファッションに対応したスクリーンプリントの商品づくりをしていくとのこと。都産技研とのつながりも深く、製品開発に向けた特殊な染色法についての技術相談や、依頼試験等をご利用いただいています。



図2 な染のりの配合場

必要なものをすぐ用意できるよう管理されている

現在では、従来の東京近郊だけでなく東北や北陸からの加工依頼もあり、毎月新規の顧客も増えているそうです。顧客のニーズに応える姿勢と、確かな技術力が新規の顧客を得るうえで大切なことだと感じました。

繊維・化学グループ <多摩テクノプラザ>

武田 浩司 TEL 042-500-1246

E-mail: takeda.koji@iri-tokyo.jp